



AGRO FITNESS

Sports & health club



野瀬病院広報誌 Vol.14

イノセンス
INNOSENCE
真っ直ぐバカ正直に

2020.August



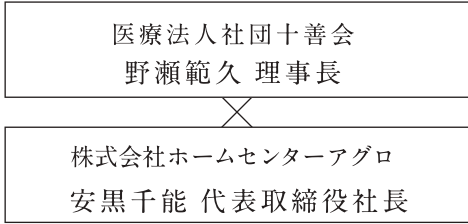
医療法人社団 十善会
JYUZENKAI GROUP



スペシャル対談



地域貢献から生まれるこの街の発展 ～それぞれの法人の役割と今後の展望～



林：まずは二人のプロフィールも含めて自己紹介をお願いします。
安黒：理事長と同一年、1968年1月生まれですので、同学年という事です。

林：まあ見た目は全然違いますけどね。笑
安黒：理事長はしっかりされていらっしゃいますから。笑

野瀬：いやいやいや…。笑
安黒：私は今の会社は家業で2代目なんですけど、大学を出てから生協コープ神戸におりまして、よく宅配をしているうちに地域の人とすこい仲良くなって、「地域活動」というのはすごくいい活動やなって思い、地域の人と関わる仕事ができたらいいなあと思っていました。ちょうど震災を機にうちの会社に戻り、震災の復興事業で長田の方でお世話になりました。それが17年前ですね。それから何とかこちらで今までずっとお世話になっておりますね。

野瀬：17年前になるんですね。
安黒：17年前ですね、早いもので。
林：今、安黒社長は色々な展開をされていて、うちの訪問看護ステーションのダウンジャケットなんか『アグロワークス』さんでお世話になっています。

安黒：ホームセンターですので色々な事業の領域があるんですけど、長田の地域の特性としましては、事業所としてはもともと重工業の町ですし、ビジネスで働いていらっしゃる、「モノ」を作られてる方が多い地域ですので、長田の働いてる方のモチベーションが上がるような、働いてる方に喜んでもらおうと

安黒：いう想いで立ち上げさせていただきました。同じ仕事するんからこいい方がいいに決まっていますからね。

野瀬：そうですね、人に見てもらおうかな。
安黒：野瀬さんもそういう部分もこだわっていらっしゃるから、そういうのがあるんだろうなと思うんですけどね。

野瀬：今日はありがとうございます。同じ年1968年で6月生まれ、学年は安黒社長の1つ下ですね。僕は実は3代目で初代はおじちゃんが創設者で、祖父の元で3代目として帰ってきたのが平成15年、だから帰ってきて17年くらいですね。この医療法人ができたのは昭和10年、なので歴史はすこいある。

安黒：歴史がありますね。
野瀬：そういう意味では帰ってきた当初は「古いだけ」という感じがしました。人に感謝をする為にはまず感謝されなあかんというのが僕のモットーなので、そこで何かやらなあかんということで、まず病院というものをよく知ってもらおう、その為にはまずは見栄えを少しでも良くしないと、受付を変えていきました。自分の弟とか従兄弟が帰ってきたつづつある時



で、このままじゃ手狭だとなったので、たまたま復興計画の計画倒れになってた土地があったので、そこに公募して、この新しい病院ができたのが6年前でした。そこに来てからは「病院」と

野瀬：いう建物は「人が集まる為」のものであって、格好の「題材」になるので、なんか知らんけど野瀬に来たら何かあるんちゃうみたいなのを求めていきました。地域に感謝して何か返せないかなって。スタッフにも同じように思ってもらう為に、働いてる人が働いてることを嬉しく思えるような環境を目指して、それこそユニフォームとか、建物とかりニューアルしていってます。勝手に思ってたんですが、アグロさんも似てるなって。「人が集いやすいような建物」というか。それに僕ら従事できてるのは嬉しいなと思いますね。

安黒：独特の“あったかい雰囲気”がしますよね、こちらの病院は。「病院」という感じがしないなというか。

野瀬：僕が一番好きなモットーで、「病院らしくない病院」というか。
安黒：ほんとにそれはよく思うんですね。
野瀬：ほんとですか！ありがとうございます。

林：お二人とも50年以上生きていらっしゃるわけなんですけど、仕事の方で一番「嬉しかった」ことはなんですか？
どんなことでもいいので、何か印象に残ったことがあれば。

安黒：そうですね、ホームセンターの仕事は色々な商品を扱って、小さい時から商品をお客さんに売ることが好きだったので、それで最初は「面白いな」やったんですけど、この事業というのは基本的に「地域貢献」というのが一番にきて、その次に「顧客」がくるので順番が少し違うんですね、通常と。そういう風に事業をやっているのは当社の中でもここだけなんです。それは僕にとっても初めての体験になりますし、生協活動をやって感じたことと、ここでやることが割と“合致”しまして。最初の頃に地域のイベントに寄らせていただいて「一緒にやってくれてありがとうね」と結構言われまして。それは何気にやってるんですけど、相手の方からとたらすこい事やと言ってくれるので、それがやっぱり何よりも嬉しいですね。



林：色々な自治会とか商店街とかすべて後方としてアグロさんが入られるので、そこはもう地元の方が感謝されてますよね。

安黒：「あ、そういうことも喜んでいただけるんやなあ」と、そういう現体験出来たのは大きいですね。
林：理事長はどんな感じでしょう？

野瀬：僕は「喜んでもらう」って意味ではまさにその通りで、僕が色々な病院回った時にすごく印象的だったのが、たまたま救急の先生で外科の先生がいないってなって、整形の患者さんやからって僕に患者さんを振ってくれたんですね。高齢者で首の骨折してる患者さんで、手術も上手くいって、その患者さんから“命の恩人”ってTVでよく言われているようなことを面と向かって言われて、「人から感謝されるのはこんなに気持ちいいことなんや」ってなって、そこが自分の初体験になって、長田に帰ってきて、大きなことしなくても「先生のおかげやわ」って言うだけで嬉しいんですね。
林：お二人とも共通ですね。人のためにやってたら「こんな感謝されるんや」って、それに気づいて今までずっとされてると思うんですけど、これから生きていく上でずっと“大切にしたいな”って思うことは何かありますか？

安黒：さっきのことに通じますけど、アグロワークスのスタッフが今全員女性で、お客さんは男性の方が殆どなんですけど、その人たちに喜んでもらうために、会社の言うことではなく目の前のお客様のことを大事にしていることに気づいたんですよ。お客様に貢献することでスタッフは喜びを得ることがわかりまして。スタッフの視点がいつそうなったかがわからないのですが、なんかしてるうちにどっかで気づいたんでしょね。だからそういう気づく人をもっと増やしてあげればと思って。そうしたら自発的に動いてくれますし、そのほうが働いてる人も楽しいですから。

野瀬：楽しかったら仕事も回りますからね。

林：そういう人が増殖するのが一番大切にしてる事なんですね。
安黒：なので、そういう事に気づいてもらえるチャンスを作ってあげたいですね。
林：理事長はどうでしょうか？
野瀬：僕もまさにそうで、仕事は『ワーク・ライフ・バランス』ってので、仕事が楽しかったらいいかなって思っています。僕が実際そうなので。人に感謝されるとこだけ気持ちいいんだよって、これがすっごく楽しいってなったら、もっと工夫をするじゃないですか、感謝される為に。色んな意味で“相談”とか、自分から自発的にできやすいような雰囲気・空気感を作るのが「組織」として大事なんじゃないかなと思いますね。
安黒：そういう雰囲気になったら自然とそうなりますよね。
野瀬：「相乗効果」ですね。
安黒：そうですね、その組織とか病院にいったら自然とみんなそうなってるわってのが一番いいですよ。
林：組織作りのには凄く“共通点”が多いってのが見えてきたのですが、お互いの会社・グループに対して、元々“印象”というか、イメージがあったんですか？
野瀬：アグロガーデンさんてホームセンターなんですけど、長田の駒ヶ林店に行った時に、確かに色んなものを売ってるんだけど、「あ、すっごくこの町に合ってるな」っていう印象がすっごくあって、もちろんお風呂もあるし、ホームセンターやのに普通に地域の店が入ってきて食材を売ったりしてるのを見て、なんかこう…皆が持ち寄ってやってきて纏めてるみたいな物凄くマッチングしてるなって思ったんですよ、この街に。なんか“人が勝手に集まってくる”ような、それこそ僕が「理想」として“勝手に集まってくる”というか、色んな意味で参考になるなと思ってました。
林：逆に安黒社長からみて、うちの十善会野瀬病院はどういう印象がありますか？
安黒：一言で言う“洗練されてる”っていう…色んな意味ですよ。よくボランティアで毎月一緒になるんですけど、駅前清掃の時もキチッとした恰好されてるし、しかも、ちゃんと継続されてるといいうか、そういう“美意識”というか、やってらっしゃることもそうだけど、この7階のイベントホールもそうですし、一つ一つが他の病院さんとは全然違う。洗練されてるなど。色んな意味で“ブランディング”がされてるなという風に思ってます。

林：ありがとうございます。今、コロナとどうい風に付き合っていくかっていうところも含めてご意見いただければ。
安黒：お客様がわざわざお店に足を運んで頂けるわけですから、来たからにはそれなりの“価値のあるサービス”ですとか、それなりのカウンセリングが受けれるだとか、Webで買うのとリアル店舗で買うのがこれまでよりはっきり差別化しますので、期待感は上がってると思うんですよ。どちらかという商品ではなくて人がするサービスのコンテンツをもっともっと磨いていかないといかない。それとお店を介してコミュニティづくりができるので、家にいる時間が増えてますから、“もう少し豊かに暮らしたい”とか、そういう傾向はますます増える一方ですので、例えば植物を育てる時間ができるとか、そうするとほんとの意味で豊かに暮らそうという、そっちの志向性がどんどん増えてくるだろうなというのはある程度予測ができるので、そっちの方もお手伝いやっていこうかなと思ってますね。
野瀬：ニーズに合わせてっていうことですね。
林：医療法人ってかなり難しい展開だと思うんですけど、理事長的にはどのようにお考えですかね？
野瀬：この地域の人たちがほんまに困った時に、ちゃんとお手伝いができる様な、感染対策は当たり前なんですけど、一人一人が意識持ってコロナという未曾有の感染症を“持ち込まないようにする”ってことですね。うちの病院が、もし例えば感染者が出たとしても、それを蔓延させないようにするために皆が自動的にパパッと動けてるのが“一般人と医療人との違い”なので。“蔓延する”ってのはそういうことなので…
安黒：“意識の違い”ですもんね。
林：その危機感というか、具体的に理事長が考えてるのも、感染の勉強会をすることで、スタッフも意識を持って危ないところに行かないっていうところも大事になりますね。
野瀬：どこで感染するかわからない、僕自身が感染する可能性も十分あるんだけど、何気なく忘れがちなのが“習慣づけられる”それだけで“防御”になるので。



林：『地域貢献』をキーワードにですね、医療業界でも言われてる地域包括ケアシステムっていうのがあるんですけども、今「学校」「医療」「介護」に限定してるから“地域社会”というものに、それこそ「企業」が入ってくるっていう流れの中で、これからお二人で何か共同できそうなことはないですか？
野瀬：僕ね、めちゃくちゃ夢があるんですよ。キーワードはやっぱりその地域でね、“自分らしく、人に貢献できる”っていうね。高齢になってくると段々と免許返上してしまったりして移動しにくくなるんですよ。先ほどアグロフィットネスで「ここバスが来るんだよ」って話をされてたときに「おっ」って思ったのが、僕らの持つてる介護の通所系のデイサービスデイケアで送り迎えるマイクロバスがあるんですが、そのバスって送り迎える間は朝と夕方使うんだけど、それ以外の時間帯ってあいてるんですよ。この人たちとバスを地域に貸し出したらと思ってます。一人では買い物やお風呂にいけなくなった人たちを送り迎えてあげて、その人たちをアグロガーデンに連れていってあげる。アグロガーデンならご飯も食べれる、買い物もできる、お風呂も入れる、フィットネスもできるってね。そしたらその人たちはずっと健康でおれるんですよ。自分で自分の食べたいものを自分で買えるから、介護で誰か頼むんじゃなくて、オンタイムでできるようにするんですよ。今度は逆にしてもらえばっかりじゃなくて、“地域貢献”してもらうために、例えば人の介護が必要になったような人たちに対して、「園芸の水やりしといてあげるわ」「肥料やりしといてあげるわ」みたいなことに、お手伝いしてもらってください。介護が必要な人達に対して「今日お茶配りにいってあげるわ」っていうようなボランティアのような「見守り隊」みたいな。そういうのって医療が中心になって温度上げてあげると、「よっしゃやろうやろう」「ほなバスで周ったげるから、その代わり不自由な人たち、なんか寝とったらちゃんと言ったげてよ、こんなんしたげてよ」って。
安黒：ああ～、すばらしいですね。

野瀬：僕そういうのが前からやりたくてね。“いつまでも地域で活躍できる”それを僕らが音頭とってやれたらなって思いますね。…これ言いたしたら僕1時間2時間ずっと話続けてまいそうなんで笑
林：しかもこれ、やっと今で半分くらいなんですよ。それこそ安黒社長が考えてらっしゃる展開の中の“CCRC”っていうところの、やっぱり「みんなが集う」ところっていうのがありまして…
野瀬：障害者とか高齢者とか関係なしに、自分たちが何かできることをより集めるとコミュニティができるっていう。
安黒：“お役立ち”ですね。
野瀬：そうそう、その温度上げるのってある意味病院って公的な中立的な立場なので。それはやっぱり手を挙げていくのがいいのかなあと。
林：確かに今回もCCRCっていう概念自身が先に認められてる中で、アグロさんのところにお風呂があって、買い物もできて運動もできるっていったら、地域、医療ももちろんやりますけど、安黒社長と一緒に、ひとつのものをやっていくと、そうなる多分“日本初”だと思います。逆に安黒社長の方から一緒に共同でできるようなことって何か考えてらっしゃいますか？
安黒：今のお伺いしてて、私も似たようなことは思っていました。僕が思ったのは一つのゴールとして、“緑化”なんですね。“都市緑化”。実は「ながた緑化推進協議会」っていうのを婦人会さんや、地元の人らと社団法人化して作りました。それこそ地元の有志の方々と“中立的なもの”を作って、緑化を進めると同時にやっぱりみんなで作り上げていくわけなので、ボランティアの方だとか、地域のお年寄りの方ですとかね。そういった方々を中心に、それこそ野瀬病院さんともそういうことができたらなあという感じですね。リハビリさんでも園芸療法でそういうことをやってらっしゃったので。似たことをやってらっしゃるなあ。やっぱり町がどんどん綺麗になっていくのが、“目に見える”ってことがすっごく大事なので。そういったことはやりがいもすっごく生まれるでしょうし。
林：“緑化”っていうのがすっごく響きますよね。やっぱり自然・環境を整えて。人とのコミュニティとしてももちろん必要ですけど。

野瀬：「あれおじいちゃんがやってん」とかね。“自慢”ができますよね。気持ちが前向きになってどんどん外に出ようとする。だから精神衛生上健康になるんですよ。園芸療法でも、花が咲くよりも、“実”のなるもの作ったほうがね、結局“成果”がね。

安黒：そうですね、それをプレゼントしたりね。

野瀬：そうそう、「誰が一番漬物おいしくできたか」みたいなパーティしたりね。“モチベーション”が上がるようなことをするのがいいと思うんですよ。

林：多分2人で夢を語るとずっと続くと思うので…。今、元気な人が元気であることが目的として見えてきてはいると思うんですけど、自分たちにできることはなんだろうっていうのを語ってもらえれば。

野瀬：やっぱり少子高齢化だと思うんですけど、高齢者が逆に子供たちに何ができていうことだと思うんですよ。子供たちに何ができて親が安心して子育てができるようになってくるので。そういった“場作り”をするべきやと思いますね。それが法人とか個人でやるんじゃなくて、地域でやっていく。そしたらこの地域は“子育てがしやすい地域だ”ってなってくることで、自然と子供の人数が増えてきたりだとか。今度は子供たちが高齢者のためになんかできないかなって。そういうことが循環して行って、勝手に高齢者が子供を見るし、子どもは高齢者のために何かしたげるっていう。そういう雰囲気づくりっていうのは組織の雰囲気づくりと一緒に、「街の雰囲気づくり」をできたらなぁと僕は思いますけどね。

安黒：やはり“健康年齢”というので「この年齢だからこうじゃないといけない」「この年齢だからもうあかん」ってことはなくなってですね、地域でどう“お役立ち”をするか？そういうところにフォーカスが当たってくると思います。今までは会社でしか立場がないみたいなところがあって、そこに価値観があったんですけど、地域のコミュニティでの“立ち位置”“立場”“役割”という部分にフォーカスは必ず当たってくるかと思うので、そこに年齢、性別、国籍問わず、色んな方がそこで暮らしてる…その暮らし方ですとか、コミュニティの在り方とか、そういうところにお手伝いがあるようになることが増えるだろうなと思いますね。

林：お二人はそこに“提案”していく立場になっていくとは思いますが、今日初めてこんな将来の事とかも考えてお話をさせていただいて、お互いの話した後のイメージと今日の感想をそれぞれお聞かせ願えれば。

野瀬：ゆっくりお話することはなかったんですけど、会社・組織をしっかりと構えてはるので、色々考えていてすごいと思ったのと、その場の雰囲気をすごく感じとりはって、色んな言葉を発されるから、町でニコニコされてるすごいフランクな方だと思ってたままの雰囲気がより良いイメージに固まりました。

林：安黒の社長はどうでしたでしょうか？

安黒：正直、朝3Fでリハビリ見させてもらったときにすごい人数の方が来られて、前から野瀬さんのスタッフはすごく感じがいいなと思ってたので、「どんな風にやってらっしゃるのかな」っていうのはすごく興味があったんですよ。どういう指導をされているのかなと思ってたんですけど、さっき理事長が「人が好きな人が集まってる」という風に仰ってて、一言ズバリそうなのかなと思いました。私たちみたいに商品売ってないので、人と人がやってらっしゃる現場で、ああいう風に皆さんされてるというのはよほど理事長が人好きというか、仰ってることはまさに“人のために役に立ちなさい”“人が好きやから”とか、そういう言葉をすごく感じました。そこは、その理由わかりました。やっぱりそうなんだなぁと。そこは私ももっと勉強しないといけないと思ったのと、地域に対してだとか、貢献の考え方は“すごく似てるなぁ”と。

野瀬：そうですね、それは僕も思いました。

安黒：なのでね、ほんとに何かリアルに何かできそうだな。今日はほんとによかったです。

野瀬：同じ年齢でね、近くて。笑

林：死ぬのも一緒ですね。笑 これから色んなことをお互いこの街に貢献しないとイケない二人だと思います。

“トップ”だからこそできる事とかもあると思うので。

安黒：ほんとにリアルに色々進めていきたいですね。

野瀬：色んなお互いの繋がりを上手く教えていただいね。

林：これで対談を終わろうと思います、お疲れさまでした！



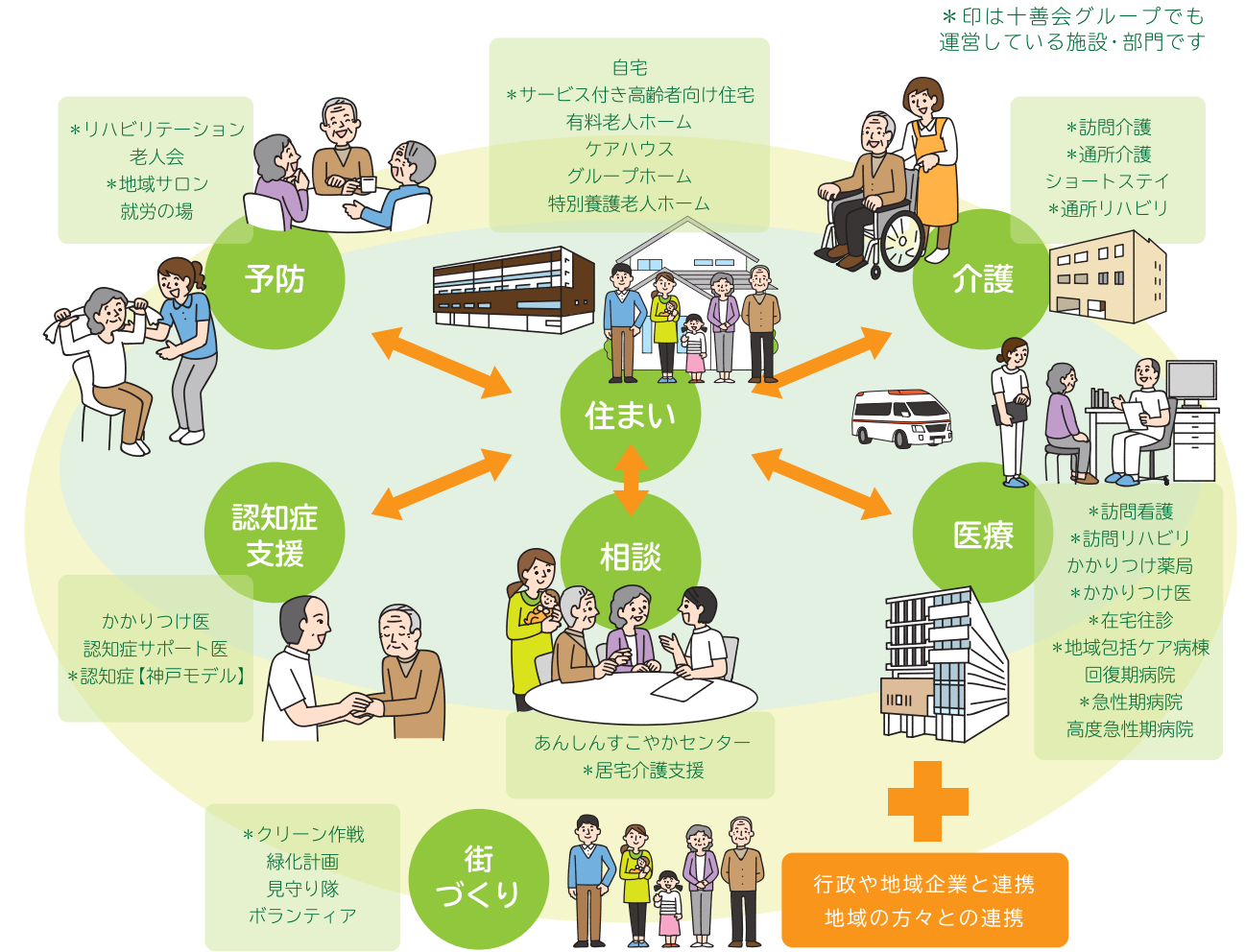
対談の様子は動画でもご覧いただけます。



野瀬理事長が目指す理想の地域包括ケアシステムとは

『地域包括ケアシステム』は地域の皆で、地域の皆を用心し合い、補い合う仕組みのことですが、地域の方々だけで簡単に出来ることではありません。医療や介護の分野だけでなく、医療法人と地域の企業がタッグを組むことで、出来る範囲が広がるのではないかと今回の対談で強く感じました。

地域の企業と地域を支えていくこと、そして近くの人が近くの人を支えていくことができれば、“CCRC”という“いつまでも地域で活躍できる”街づくりができるのではないかと考えています。





今こそ！ロコモと生活習慣病の予防を！！

この度、新型コロナウイルス感染症の影響で、テレワークによる通勤の減少や外出の自粛、学校の休校、スポーツイベント中止などでステイホームを守られている方が多いと思います。そのため、日常の運動および活動量の不足が原因でロコモティブシンドロームの進行や生活習慣病の増加が懸念されています。

ロコモティブシンドローム（通称：ロコモ）とは

移動能力低下を示す言葉で、いわゆる歩く能力が低下していることです。このロコモが進行すれば転倒することが増加し、骨折するリスクが高くなります。また骨折した場合、足腰の筋力および体力の低下によって介護が必要になるリスクが高まります。また、生活習慣病を合併していると、より生活に必要な日常生活動作の獲得が難しくなっています。そのため、現在だけではなく将来の身体への影響も鑑み、これまでより一層に運動する機会をつくりましょう。寝たまま動かない生活が続いている方は、まずは身の回りのことを自分で出来ることから始めましょう！

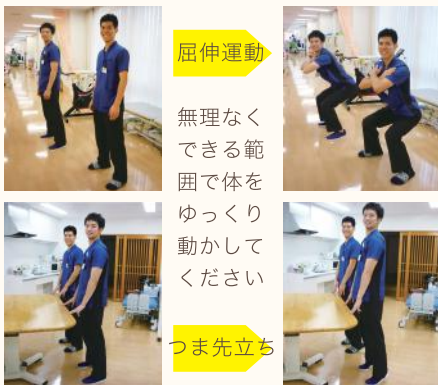
生活習慣病とは

肥満、糖尿病、高血圧症、高脂血症などを示します。これらは新型コロナウイルス感染症の重症化との関連があります。そのため、生活リズムを整え、運動、睡眠、たばこ、食事などに気をつけながら、健康的な生活を心掛けましょう。新型コロナウイルス感染症の予防に加えて、ロコモや生活習慣病の予防が重要であり、**運動療法と食事療法**が必要不可欠になります！

運動の方法がわからない方、生活習慣病について知りたい方（骨粗鬆症も含める）

『骨コツ教室に参加してみよう！』→→→→

骨コツ教室とは骨粗鬆症啓発活動の一環として開始しました。開始当初は5名程度でしたが、現在30名程度のたくさんの方々にご参加いただいています。骨粗鬆症の方以外でも運動不足の方、ロコモや転倒を予防したい方、骨粗鬆症を含めた生活習慣病を予防したい方、栄養について知りたい方などご自由に誰でも参加ができます。内容は骨粗鬆症関連の情報提供や30分程度の運動、個別での運動・栄養指導を行なっています。少しでも興味がある方は、参加をしてみてください！
※現在、骨コツ教室は自粛中です。開催する際は報告します。



あなたの毎日に笑顔をプラスする『リガラボ』

公益社団法人 日本理学療法士協会が運営するリガラボとは、あなたの毎日に笑顔をプラスするWEBメディアとなります。カラダの不調や子育て、介護など、あなたが日常で気になっていること、困っていることへのちょっとしたヒントになる情報が確認できます。カラダの不調を未然に予防して、少しでも健康寿命を伸ばしたい、そのためのアイデアが詰まった情報サイトです。新型コロナウイルス感染症の予防や生活習慣病、運動療法など健康や医療に関する情報が掲載されています。ぜひ、このサイトをご覧ください、お役立て下さい。



旬の食材を食べて、高血圧を予防しよう！

生活習慣病予防には運動療法と食事療法が不可欠になってきます。今回は生活習慣病のうちの高血圧予防（塩分控えめ）についてお話します。今の時代スーパー等に行くと様々な食材が季節関係なく購入できます。好きな食材を食べるといいものですが「旬の食材」には良い面がたくさんあります。

<p>味わいが豊か</p> <p>旬の食材は、香りやうまみが豊富です。食材本来の美味しさを味わうことが出来ます。本来の味を生かして調味料も控えめにしてみたいかが良いでしょう。</p>	<p>季節外の食材より栄養価が高い</p> <p>旬の食材は、その時期の身体が欲する栄養素を多く含んでいるため栄養価が高いです。昔から旬として食べられてきたのには理由があったのですね。</p>	<p>季節を感じながら毎日の食事に取り入れやすい</p> <p>旬の食材はそれぞれに適した環境で育つため市場にも安価で出回りやすいです。そのため手軽に毎日の食事に取り入れることができます。</p>
--	---	---

- 9月10月が旬の食材**
- 秋刀魚（9・10月）カツオ（9・10月）鮭（9～11月）南瓜（7～12月）栗（9・10月）さつまいも（9～12月）しめじ（9・10月）カボス（8～10月）すだち（8～10月）

旬の食材は香りやうまみが豊富なので薄味でも美味しく食べることができます！柑橘類や香辛料を用いて塩分（食塩、しょうゆ、ポン酢、ドレッシング等…）を控えめに調理してみましょう！

<p>カボス</p> <p>多汁で酸味が強い。魚料理の薬味に加えてさっぱりと！</p>	<p>すだち</p> <p>さっぱりとした酸味。刺身やキノコの炒め物に垂らして、香りを楽しんで！</p>
--	---

毎日の食事を工夫されるだけで疾病予防につながります。ぜひ取り入れてみてください。高血圧予防についてさらに詳しく知りたい方は、当院管理栄養士による栄養指導も行っております！

※疾病により食事制限がある方は担当の医師に相談して下さい。

新役員就任のご挨拶

医療法人社団十善会 理事長 野瀬 範久 整形外科



新型コロナウイルス感染症拡大により、すっかり生活の仕方が変わってしまった現在において、当法人も新しく理事を改変することになりました。そして今回新しく理事長に就任致しました野瀬範久です。皆さまどうぞよろしくお願い致します。今年(2020年)52歳になりました。人生経験も医者としての経験もまだまだこれからの若輩者ですが、2003年に当法人に3代目として入社してより受け継いできた「愛情・丁寧・親切」の理念をもとに少しでも地域貢献出来るように必死に走って参りました。2014年に新しく現在の病院に移転してからは同じ気持ちで一緒に働いてくれるたくさんの仲間にも恵まれて助けてもらいながら、今まで以上に地域に・周りの人達に感謝しながら本当に楽しく毎日仕事をさせて頂いています。これからもずっとこの地域にとって必要とされ続ける法人、そしてこの地域を活性化できる法人となれるように正しい道を進んで参りたいと思っております。

野瀬病院 病院長 野瀬 貴久
内科・循環器内科

この度院長になりました、野瀬貴久です。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療・介護の業務および感染予防に取り組んでおります。生活は一変してしまいましたが、嘆き、思考停止するのではなく、今何ができるのか、この先どうなるのかを考えて進んでいきたいと思っております。十善会が目指す組織は“状況を分析”し、“考え工夫”し、“評価して修正”する事が出来る柔軟な組織と思っております。皆さま一人一人のお力と知恵を貸していただき、成長できる組織を作っていきたいと思っております。引き続き、宜しくお願いいたします。



野瀬病院 副院長 野瀬 隆一郎
泌尿器科・人工透析

この度副院長になりました、野瀬隆一郎です。昨今の新型コロナウイルスの驚異に、当法人も大変苦勞しております。しかし、この様な時こそ、皆さまのご協力が必要だとひしひしと感じ、また皆さまからの当法人への激励に感謝の念に絶えません。今後、新しい体制下にさらに“スタッフの皆がスタッフらしく、誇らしく活躍できる”十善会の形作りを目指し、地域の皆さまへ恩返しできるよう尽力いたしますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。



地域の皆様の10年後も気持ち良く走れる体づくりへ

今回、対談させていただいた安黒社長(株式会社ホームセンターアグロ)が運営するフィットネスが、2020年4月よりオープンしております。場所は天然温泉あぐろの湯の隣。あぐろの湯と共通入口になっているのでご存知の方もいらっしゃると思いますが、とても広々とした空間の中に、ランニングマシンやエアロバイク、さらにはメーカーと共同開発した、サポート機能付き(怪我のしにくい)のサーキットトレーニングマシンを導入していて、ご希望の方にはパーソナルトレーニングも可能とのこと。スタジオではプロジェクターを使って壁に映像を投影し、異空間の中で運動を楽しみながら行うレッスン、プロジェクションワークアウトを体験できます。ダンスやヨガ、エアロビクスや格闘技系のレッスンなど、自分に合った運動が見つかるはず。

フィットネスで筋力を、天然温泉で治癒力を。

様々な設備が整ったアグロフィットネスさん。他のジムとの違いはなんと言ってもフィットネス会員であればあぐろの湯をいつでも利用できること。ひと汗流した後にゆっくりサウナや温泉でリフレッシュできます。心も体も健康に導いてくれるアグロフィットネスさん。現在、**オープニングキャンペーン中**とのことです。お得な情報は公式ホームページをご覧ください。



アグロフィットネス | 検索



【平日】10:00~23:00
【土曜】10:00~21:00
【日・祝】10:00~18:00
【店休日】毎週木曜日

TEL 078-691-6699 〒653-0044 神戸市長田区南駒栄町 1-6



外観

受付

ランニングマシン

エアロバイク

スタジオ



診療時間	平日	午前 9:00～12:00 午後 17:00～18:30
	土曜	午前 9:00～12:00
休診日	土曜午後・日曜・祝日	
面会時間	10:00～20:00	

診療時間		月	火	水	木	金	土	
午前診	受付開始 8時30分	整形外科 荒木 大輔	整形外科 野瀬 範久	整形外科 野瀬 範久	整形外科 野瀬 範久	整形外科 福井 友章 診察9時30分～	整形外科 北山 和道	整形外科 野瀬 範久
	9時 ～ 12時	循環器内科 野瀬 貴久		循環器内科 野瀬 貴久	循環器内科 野瀬 貴久	循環器内科 野瀬 貴久	循環器内科 野瀬 貴久	循環器内科 野瀬 貴久
午後診	受付13時～16時 14時～17時				循環器内科 福家 啓起			
	受付開始 16時30分	整形外科 野瀬 範久	整形外科 野瀬 範久		整形外科 野瀬 範久			
	17時 ～ 18時30分		循環器内科 福家 啓起	循環器内科 野瀬 貴久	循環器内科 野瀬 貴久	循環器内科 野瀬 貴久	泌尿器科 野瀬 隆一郎	

アクセス

JR 神戸線・神戸市営地下鉄 | 新長田駅より徒歩 10 分
 神戸市営地下鉄 | 駒ヶ林駅より徒歩 3 分
 新長田合同庁舎前交差点を東・1つ目の交差点を北へ




医療法人社団 十善会
野瀬病院
 TEL 078-641-2424 (代表) FAX 078-641-2624



野瀬訪問看護ステーション
つながり
 TEL 078-611-3211 FAX 078-611-3212
 〒653-0042 神戸市長田区二葉町5丁目1番36号





野瀬まごころ診療所
 TEL 078-631-0556 FAX 078-621-0555



野瀬訪問看護ステーション
ゆかり
 TEL 078-641-5000 FAX 078-641-2018



野瀬サービス付き高齢者向け住宅
やっぱりここ
 TEL 078-641-6541 FAX 078-641-5541
 〒653-0041 神戸市長田区久保町3丁目9-7






居宅介護支援事業所
つながり
 TEL 078-641-2222 FAX 078-641-3333



野瀬通所介護施設
Lien りあん
 TEL 078-641-6800 FAX 078-641-6888
 〒653-0041 神戸市長田区久保町3丁目9-1



ウェブサイトは
QRコードから

